

こんなはしの使い方はやめようね

よせばし



なみだばし



にぎりばし



たたきばし



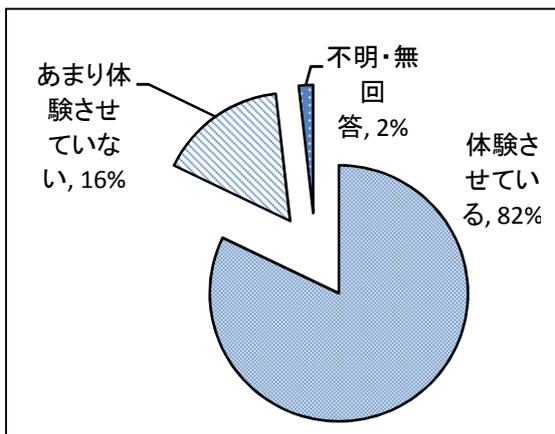
行事食をお子さんと一緒に体験していますか？

和食が世界無形文化遺産に登録されたのは2年前。和食が世界に認められた4つの特徴のうち、「年中行事との密接な関わり」というのがあります。

自然の恵みである「食べ物」をみんなで分け合い、一緒に食事することで家族や地域のきずなを強めています。さて、みなさんのご家庭ではどうでしょうか？



ご家庭では『晴れの食事(家族の誕生日や行事食)』を体験させていますか？



6月に実施した食生活アンケート(各学年1組で実施)によると、晴れの食事を体験させているのは82%、体験させていないが16%という結果でした。

さらに、今月の十五夜や冬至、節分、ひなまつり等々、四季折々の行事食を体験させるという家庭は年々減少しているのでは、と危惧されます。

行事食には、自然の恵みに感謝し、家族の幸せや健康への願いが込められています。これからも学校、家庭共に行事食を伝えていきたいですね。

給食での行事食を紹介

9月25日(金)の給食では十五夜にちなんだ献立、「いものこ汁」と「みたらし団子」を実施しました。



一緒に作ろう！「みたらしだんご」

白玉粉や、だんご粉でおだんごを作り、みたらしあんをかければ、簡単に「みたらしだんご」ができます。

〈みたらしあんの材料〉
 さとう 30g(大3弱)
 しょうゆ 10g(大2弱)
 片栗粉 5g(大1弱)
 水 40cc

〈作り方〉
 砂糖、しょうゆ、水を加熱し、水で溶いた片栗粉を加えてとろみがついたらできあがり。

お月見の日は十五夜だけではない？

～十五夜と十三夜～

「十五夜」は昔の暦で8月15日の夜、「十三夜」は9月13日の夜に行われるお月見の行事です。

いまの暦では、今年は9月27日が「十五夜」、10月25日が「十三夜」です。

十三夜にはお団子の他、栗や芋を供えることから「栗名月」とか「豆名月」とも呼ばれます。ぜひ25日もお月見を楽しんでみてください。





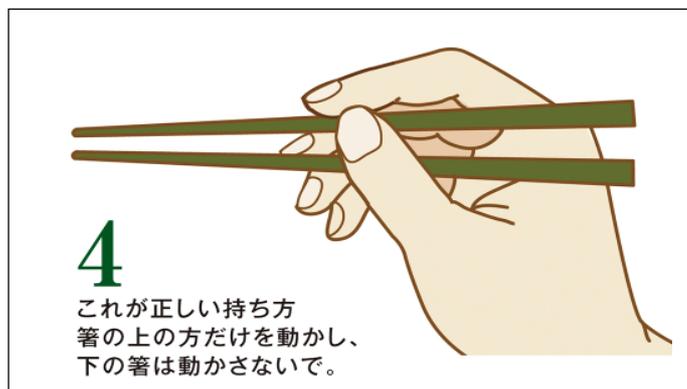
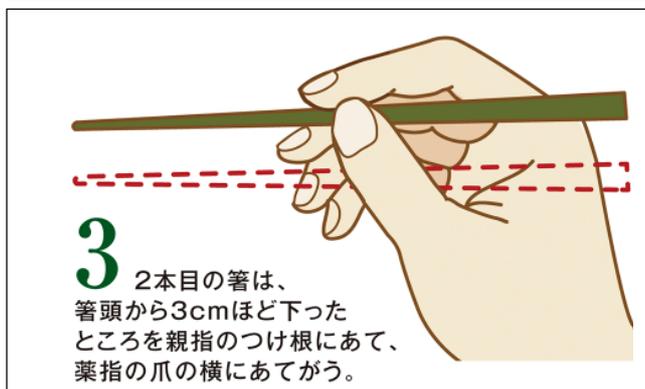
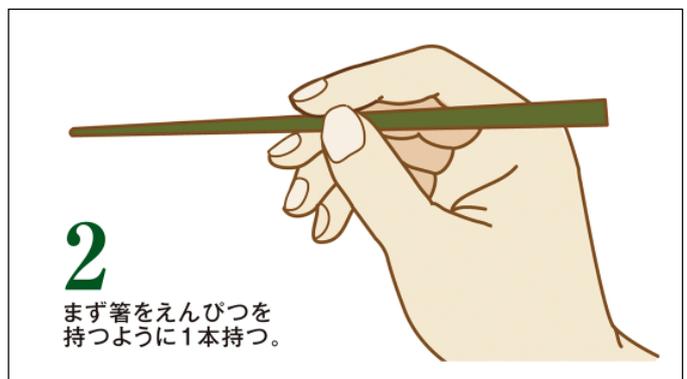
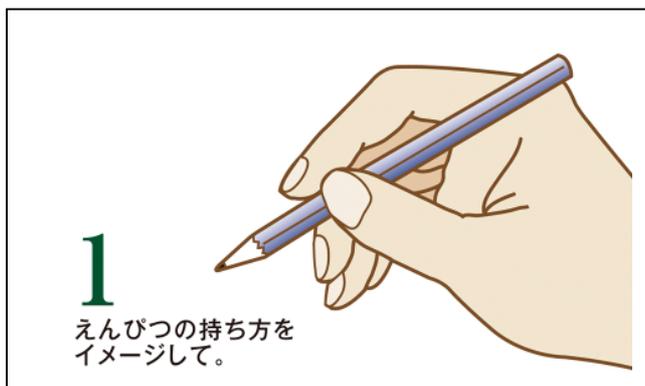
大崎市立古川第四小学校
平成 27 年 10 月 8 日

「おはしの国の人だもの」

これを見て、ピンときた方はいませんか？1989 年、女優の三田佳子さんが出演していた和風だしの CM のキャッチコピーです。あれから 20 数年経た今、CM の映像ははっきりとは思い出せませんが、この言葉だけはいつも頭によみがえります。

「おはしの国の人だもの」。四小の子どもたちにもこの言葉のように、日本人として和の食事や作法に愛着や誇りを持って欲しいと思っています。

はしの持ち方を練習しましょう



先月の給食目標は「**正しくはしを持つ**」でした。

実際四小の子供たちにも、実に様々な持ち方が見受けられ、「よくこれで食べられるな〜…」と感心してしまうこともしばしば。

さて、子供は何歳から正しく使えるようになるのでしょうか？

昭和 10 年から 11 年に実施された調査によると **3 歳半の子で 75% がちゃんと持っていた**とのこと。昔は幼児でも正しく持つ子が多かったのですね。

ですから 1 年生でもできないことはありません。はしの持ち方については家庭でも根気強く教えていただければと思います。また、**手先を器用に動かす訓練**をすることは**脳の発達を促す**そうです。

できるだけ楽しく、たくさん練習させてください。立派な「おはしの国の人」を目指しましょう。